

### 3 環境マネジメントシステム

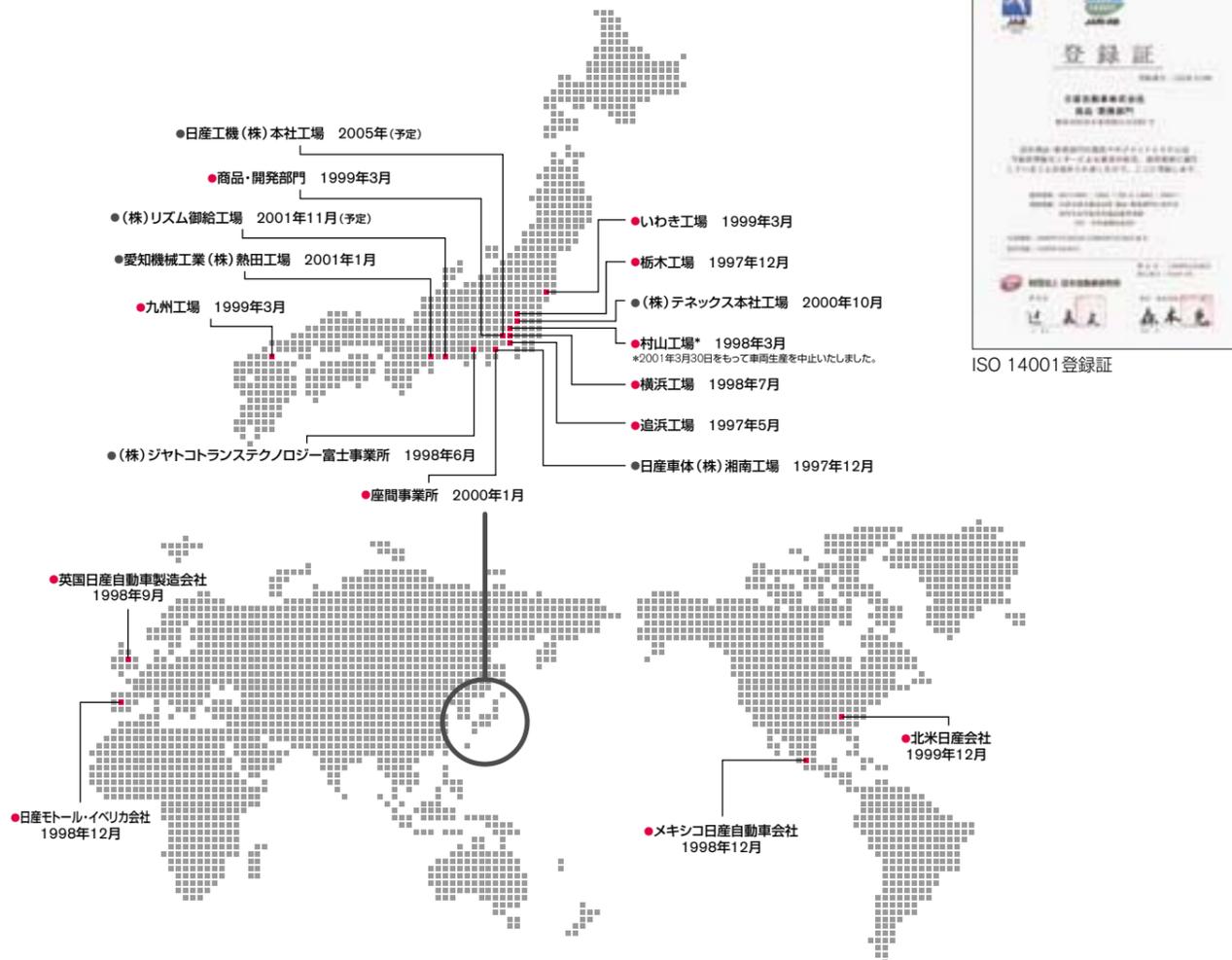
クルマは人間に移動の自由や、多くの利便性をもたらすことで、20世紀に著しい発展を遂げ、文明生活に欠かせない存在となりました。一方で、地球温暖化等、環境に影響を与えることも事実です。我々はクルマの利便性を更に向上させると共に、環境問題に対し企業活動の全範囲において自動車会社としてできること、貢献できることは何かを考え、環境理念・環境方針を定め、活動を進めています。

また、環境への取り組みが企業評価の重要な要素の1つとされ、いわゆる環境格付けやエコファンドなど新たな動きが始まっています。このような中、我々は環境対応の透明性・公平性を確保するために世界標準の環境マネジメント規格ISO14001の認証取得を推進し、2000年1月までに国内生産6工場・1事業所、海外主要生産4拠点及び、商品・開発プロセスにおいて取得を完了し、グローバルな環境マネジメント体制を整備・強化しました。

また、主な連結子会社の生産工場においても一部を除き2000年度内にISO14001取得を完了しました。2000年4月よりISO14001に準じ、販売会社の実務により則した独自の環境認定制度「日産グリーンショップ認定制度」を導入し、環境保全の取り組みを強化しています。

(日産グリーンショップ認定制度については30頁をご覧ください。)

日産自動車及び主な連結子会社のISO14001認証取得状況



#### 1. 環境マネジメント体制・責任

1993年3月より全社的な方針・目標の設定、進捗状況の評価・確認などの機能を持つ環境統括委員会を設置しています。2000年度は2回(第15、16回)開催しました。環境統括委員会で扱われる案件のうち、特に重要な課題についてはエグゼクティブコミッティーに報告され審議されます。さらに欧州、北米にも環境委員会を設置し、地球規模および地域の環境保全に取り組んでいます。



第15回環境統括委員会

#### 2. 環境マネジメントシステム(EMS)運用・監査

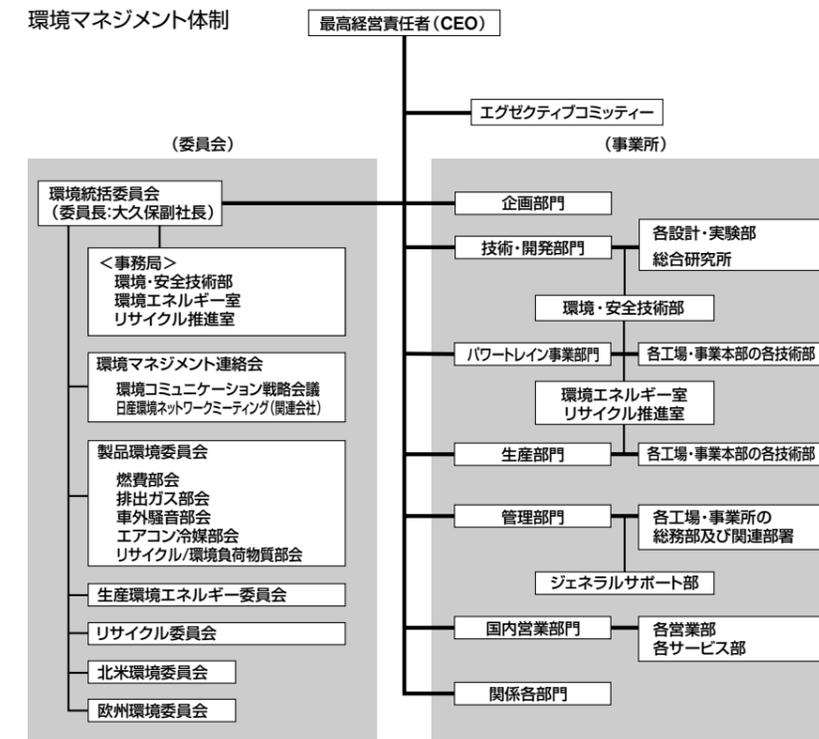
EMSに基づく方針や目的・目標が適切に実施され、改善するシステムが継続的に維持されて機能しているかを、内部監査と第三者機関による外部審査でチェックしています。

内部監査では、EMSの運用状況のシステム監査に、監視及び測定状況を重点にした環境パフォーマンス監査を加え、工場・事業所からの監査員で構成された監査チームが、第三者的立場で監査を実施しています。

2000年度は、外部審査において、軽微な指摘7件を受けました。いずれも運用・管理における基準書等の記載事項の不備が主であり、指摘事項については早急に改善を行い、全事業所とも、EMSが「適切に維持され継続的に改善されている」との評価を得ています。

また、販売会社に対しては、「日産グリーンショップ認定制度」を構築して社内監査による認定を行っております。

環境マネジメント体制



項目	認証取得											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
商品・開発プロセス										●	○	■
横濱工場				■								●○
追浜工場												●□○
栃木工場										●	■	○
九州工場												●■○
村山工場				■								●○
いわき工場												●○



監査風景